

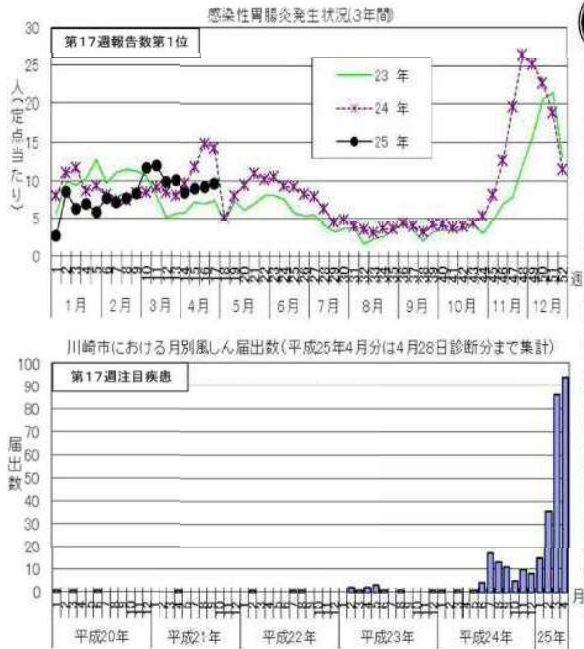
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年4月22日(月)～4月28日(日)〔平成25年第17週〕の感染症発生状況

第17週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎は定点当たり9.61人と前週(9.18)より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.85人と前週(2.79)より患者報告数はやや増加し、例年より高いレベルで推移しています。風しんの届出が20件あり、前週と比較すると届出数はやや減少しましたが、平成20年以降の月別で、過去最多の報告となっているため、引き続き、予防対策等(ワクチン接種の検討等)の徹底が重要です。



## ゴールデンウィークに海外旅行を計画している方に!!

現在中国で鳥インフルエンザ(H7N9)による感染症が報告されています。海外で思わぬ感染症にかからないように次のポイントにご注意ください。なお、海外旅行から帰国した後に、発熱や咳などの症状が出た方は、医療機関を受診した際に、旅行先や旅行期間をお伝えください。

### 手を洗うタイミング

- ・ 食事を用意する前、用意している間、その後。
  - ・ 食事を食べる前。
  - ・ トイレを使用した後。
  - ・ 手が汚れている時や動物を触った後。
- ※石けんと流水で手を洗いましょう。手洗い後、アルコール製剤の利用も効果的です。



中国では、鳥インフルエンザ(H7N9)感染症の発生が多くみられるため、鳥に直接触ったり、病気の鳥や死んだ鳥に近寄りたりにしないようにしましょう。

### 咳エチケット

- ・ 咳やくしゃみをするときには、マスク、ティッシュペーパー、(服の)袖、または肘(ひじ)で口と鼻を覆いましょう。その後すぐに、使用したティッシュペーパーを捨てるとともに、肘や手を洗いましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250

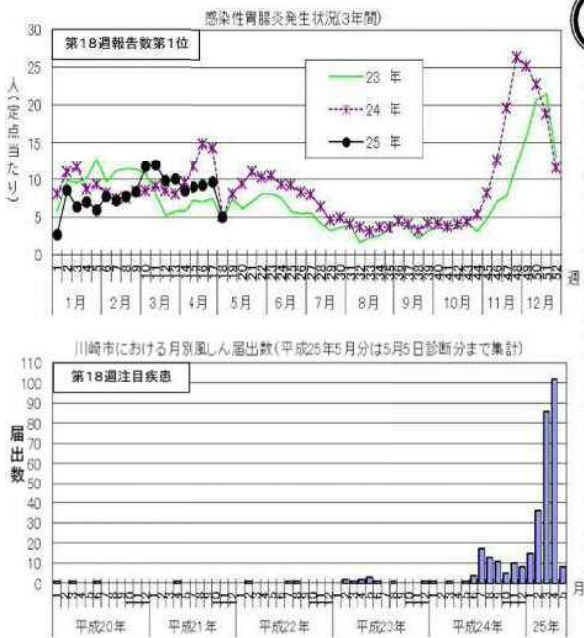
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年4月29日(月)～5月5日(日)〔平成25年第18週〕の感染症発生状況

第18週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎は定点当たり5.00人と前週(9.61)より患者報告数は大幅に減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.03人と前週(2.85)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。風しんの届出が12件あり、前週と比較すると届出数は減少しましたが、第18週はゴールデンウィーク期間中であり、休診していた医療機関が多かったことが影響していると考えられるため、今後も引き続き注意が必要です。



## 麻しん風しん混合ワクチン接種費用の一部助成実施中!

川崎市では、例年を大きく超える風しんの流行に対応するため、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施しています。風しんは、一般に予後が良好な感染症ですが、妊婦が感染すると、胎児に先天性心疾患、難聴、白内障などの症状が現れることがあるため、多くの方がワクチン接種を受けることで、今後生まれる赤ちゃんを守ることが大切です。

### 対象者 接種費用一部助成の概要

- 川崎市民で、原則として風しんにかかったことがなく、予防接種を受けたことがない方であり、次のいずれかに該当する方については、この緊急対策により1回接種することができます。
1. 妊娠している女性の夫(児の父親)
  2. 23歳～39歳の男性(昭和49年4月2日～平成2年4月1日生まれ)
  3. 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性(平成2年4月1日以前の生まれ)

### 接種費用

2,000円程度(通常は1万円程度)

### 接種期限

平成25年9月30日(月)まで(予定)

妊娠中の方は接種ができません。また、接種後2か月間は避妊する必要があります。詳細は、お住まいの区の区役所保健福祉センター・地域保健福祉課までお問い合わせください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250



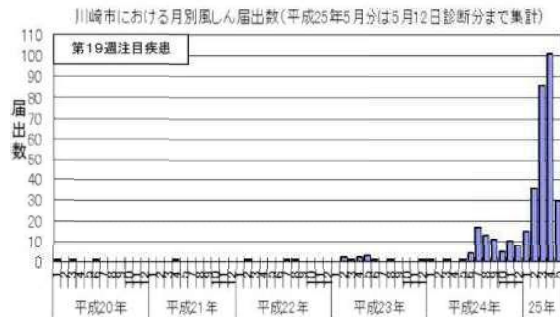
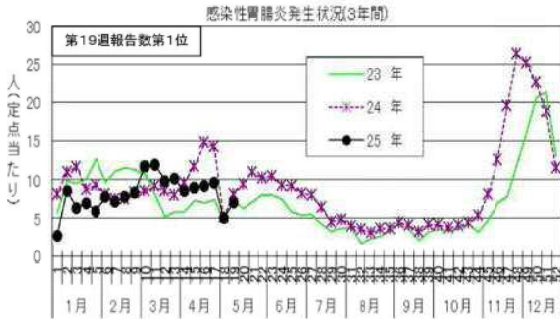
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年5月6日(月)～5月12日(日) [平成25年第19週] の感染症発生状況

第19週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり7.00人と前週(5.00)より患者報告数は増加し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり3.03人と前週(2.03)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が20件あり、依然として報告数は多くなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、この機会に予防接種を検討しましょう。



## 「たかが風しん」と、あなどるなかれ！！

風しんは、一般に予後が良好な疾患ですが、成人では高い熱が出たり関節痛を引き起こすことがあるとともに、まれに急性脳炎などの合併症を引き起こすこともあります。

今年は、例年に比べ風しんの届出数が非常に多くなっており(左下グラフ参照)、特に20～40代男性が多くを占めています。法に基づく予防接種では、昭和54年4月1日以前に生まれた男性は、接種対象外となっており、免疫を持っている方が少ないと考えられますので、風しんの予防接種を検討しましょう。

川崎市では、感染の多い世代の男性や妊娠を予定する女性などに対して、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施しています。

### ワクチン接種費用一部助成対象者

1. 妊娠している女性の夫(児の父親)
2. 23歳～39歳の男性(昭和49年4月2日～平成2年4月1日生まれ)
3. 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性(平成2年4月1日以前の生まれ)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

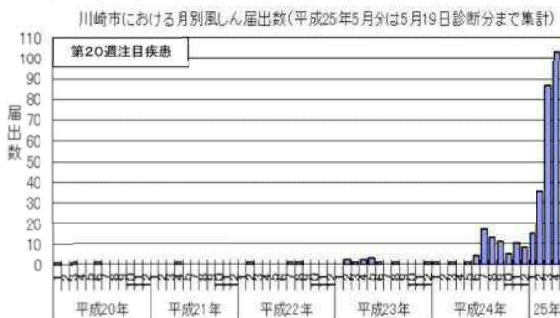
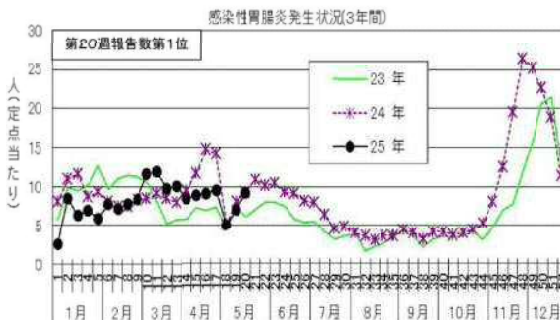
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年5月13日(月)～5月19日(日) [平成25年第20週] の感染症発生状況

第20週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり9.24人と前週(7.00)より患者報告数は増加し、例年よりもやや高いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり3.48人と前週(3.03)より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が17件あり、依然として報告数は多くなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



## 基本が大切！！～手洗いと咳エチケット～

現在、海外では鳥インフルエンザ(H7N9)やSARSに似た新型コロナウイルスなどが発生しています。また、川崎市においては、風しんの患者報告数が非常に多くなっており、さらに、宮前区・多摩区・麻生区などではインフルエンザの報告数が増加しています。

感染症の予防やまん延防止に最も効果的で基本となる対策は「手洗い」と「咳エチケット」です。今回は、正しい手洗いのタイミングと咳エチケットの方法を御紹介します。

### みんなで「手洗い」と「咳エチケット」を実践しよう！！

～こんなときは必ず手洗いを！～

- ①帰宅時
  - ②トイレの後
  - ③食品を取り扱う時
  - ④食事の前
  - ⑤咳やくしゃみを手で押さえた後
  - ⑥オムツ交換時 など
- ※手洗いの際には指輪などは外しましょう。

～咳エチケットの実践方法！～

- ①咳やくしゃみをするときは、他の人から顔をそむけ、ティッシュなどで口や鼻を覆いましょう。
- ②鼻汁・痰などを含んだティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。
- ③咳やくしゃみが出ているときは、他の人にうつさないように、マスクを着用しましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250



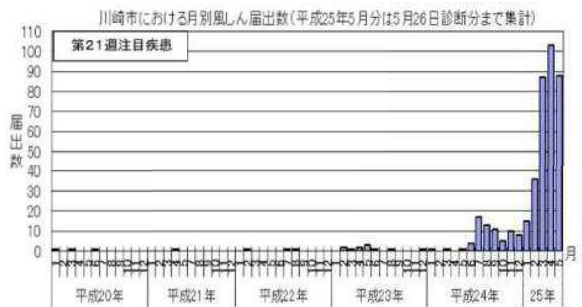
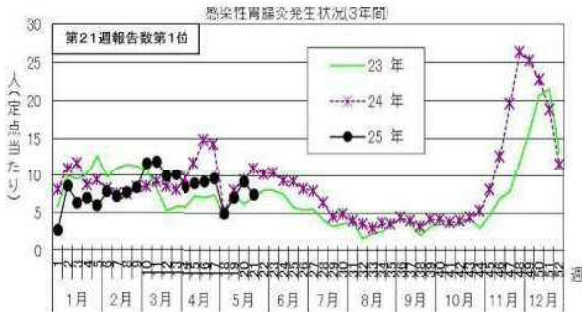
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年5月20日(月)～5月26日(日)【平成25年第21週】の感染症発生状況

第21週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘 でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり7.45人と前週(9.24)より患者報告数は減少し、例年よりも低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.97人と前週(3.48)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 風しんの届出が24件あり、前週より報告数は多くなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



## 今年の風しん患者は例年の118倍！！

川崎市における今年の風しんの届出数は、第21週(平成25年5月26日診断分)までに329件あり、平成20～24年の同時期の平均(2.8件)に比べ約118倍に増えています。

20～40歳代の働く年齢層の方が多くなっていますので、自分自身だけでなく、家族と一緒に働く方を風しんから守るためにも、次の対策をご検討ください。

### 女性は…

→妊娠前に風しんの予防接種をご検討ください。

- ・接種後2か月は避妊が必要です。
- ・2回接種で、より確実に先天性風しん症候群を予防できます。

### 妊娠中の女性は…

→ご家族の方に風しんの予防接種を検討してもらってください。

- ・妊娠は風しんの予防接種を受けることができません。
- ・妊娠中で予防接種を受けられない場合には、人混みを避けるなど、風しんにかかっている可能性のある人との接触は可能な限り避けてください。

### 成人男性は…

- 以下をチェック！
- 風しんにかかったことがない
- 風しんワクチンを受けていない
- どちらも不明

該当する方は、風しんの予防接種をご検討ください。

・2回接種しても問題ありません。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

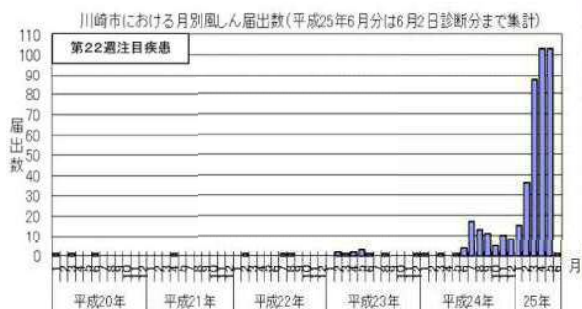
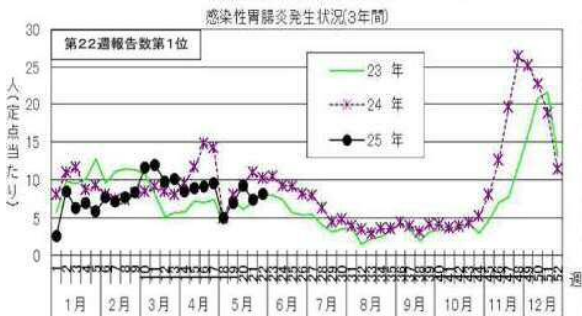
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



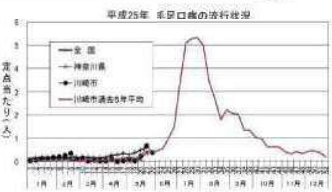
平成25年5月27日(月)～6月2日(日)【平成25年第22週】の感染症発生状況

第22週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘 でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり8.24人と前週(7.45)より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.76人と前週(2.97)より患者報告数はやや減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 風しんの届出が15件あり、前週より報告数は少なくなっていますが、例年に比べると報告数は非常に多くなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



## 夏に向けて流行する感染症～手足口病～

現在、手足口病(いわゆる「夏かぜ」と呼ばれる感染症)の患者報告数が宮前区を中心に増加しています。手足口病は、例年、夏期に向けて患者発生数が継続的に増加するため、今後保育園や幼稚園等の集団施設を中心に流行が拡大する可能性があります。



### 手足口病の特徴

手足口病はその名前のとおり、手、足、口(口腔粘膜)などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性のウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に夏期に流行します。発熱は出ないか高くても38℃程度で、咳やくしゃみなどのしびき、便や水疱の内容物が感染源となり、3～5日程度の潜伏期間の後に発症します。また、ウイルスの種類によっては、脳炎を引き起こしたり、爪がはがれるなど、重症化することもあります。

### ●気をつけたいこと

多くは数日中に自然に治りますが、口の中の水疱が痛くて飲食ができなくなるので、脱水症状に注意し、水分補給を心がけましょう。また、感染を防ぐには、ウイルスで汚染された手指をよく洗うことが大切です。特に排泄物の取扱いには注意しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250



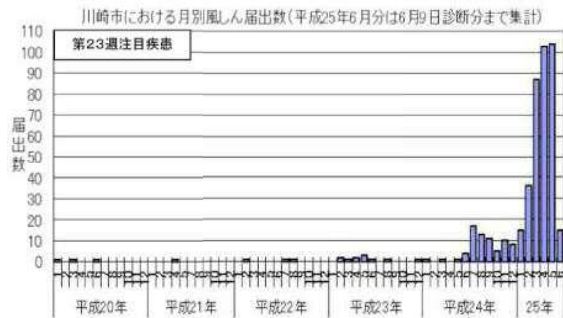
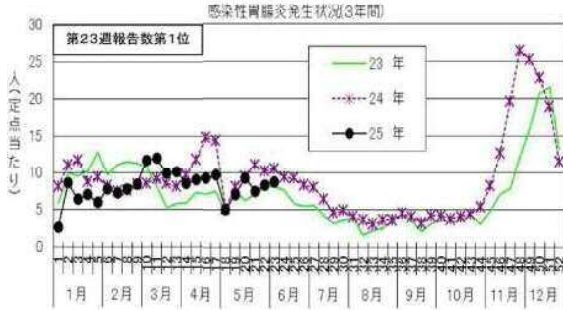
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年6月3日(月)～6月9日(日)【平成25年第23週】の感染症発生状況

第23週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病 でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり8.73人と前週(8.24)より患者報告数はやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.24人と前週(2.76)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が12件あり、前週より報告数は少なくなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



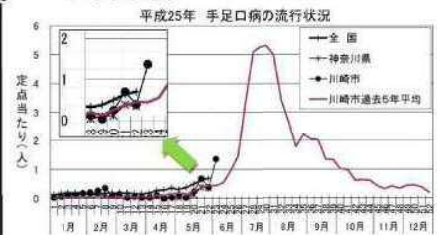
## 例年よりも早い流行か！？～手足口病～

「手足口病」は、その名前のとおり、手、足、口などに現れる水疱性の発疹を主症状とする感染症で、例年夏季に、乳幼児(主に5歳以下)を中心に流行します。通常数日間のうちに治癒する予後良好の疾患ですが、まれに髄膜炎などの合併症を伴い、重症化することがありますので油断は禁物です。

下のグラフのとおり、第23週に患者報告数が増加し、今後夏季に向けて、さらに患者数が増加することが推測されます。そのため、特に保育園や幼稚園などでは、予防対策を徹底する必要があります。



- 気をつけたいこと！！
- ① 手洗いの徹底及び便などの排泄物の適切な処理が予防対策の基本です。
  - ② 口の中に発疹ができると、痛みにより飲食できなくなることがあるので、脱水症に注意しましょう。
  - ③ 症状が回復した後も、1か月程度ウイルスが便中に排泄されることがあります。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 健康安全研究所: 044-276-8250(麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く。)  
 ※麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものは各区役所保健福祉センター・地域保健福祉課へ御連絡ください。

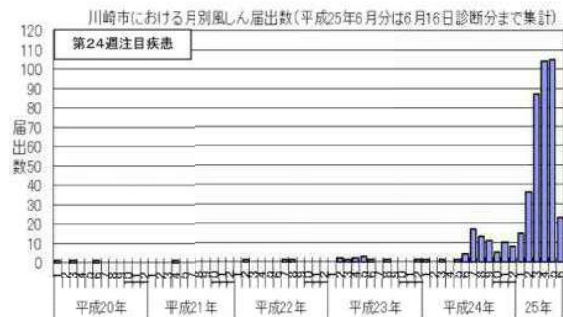
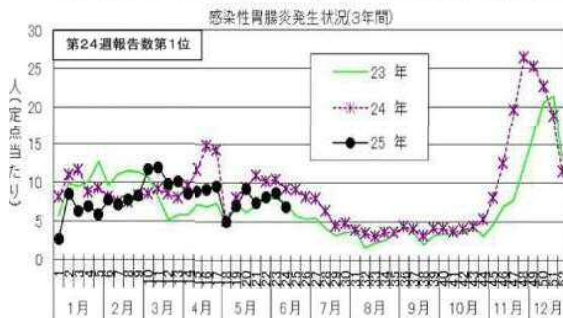
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年6月10日(月)～6月16日(日)【平成25年第24週】の感染症発生状況

第24週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病 でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり6.88人と前週(8.73)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.45人と前週(2.24)より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が8件あり、前週より報告数は少なくなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



## 風しん患者届出数が全国で1万人を超える！！

今年の累積風しん患者届出数が全国で1万人を超えました。川崎市においても、例年を大きく超えて流行が続いています。

さらに、先天性風しん症候群(CRS)の患者届出数が、平成24年10月以降全国で11件にも上っています。

※先天性風しん症候群とは、妊娠中にお母さんが風しんに感染すると、赤ちゃんが生まれつき心疾患、難聴、白内障などの障害を持って生まれてくる病気のことです。

### 川崎市における風しん緊急対策

川崎市民で、次のいずれかに該当する方については、9月(予定)までの間、麻しん風しん混合ワクチンを2,000円程度で1回接種することができます。

1. 23歳～39歳の男性(昭和49年4月2日～平成2年4月1日生まれ)
2. 妊娠している女性の夫(児の父親)
3. 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性(平成2年4月1日以前の生まれ)



特に早めの接種が重要です。



※原則として風しんにかかったことがなく、予防接種を受けたことがない方が対象です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 健康安全研究所: 044-276-8250(麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く。)  
 ※麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものは各区役所保健福祉センター・地域保健福祉課へ御連絡ください。

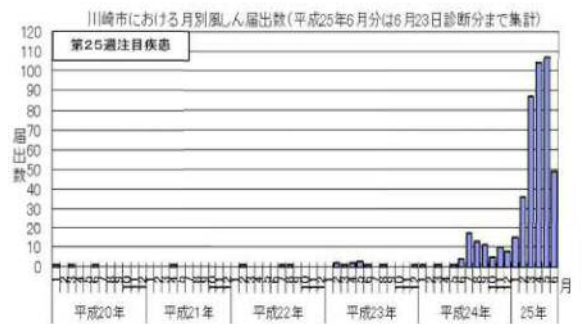
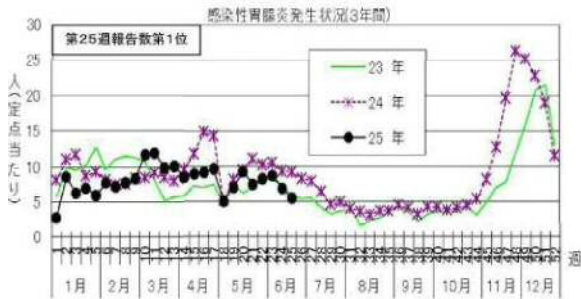


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年6月17日(月)～6月23日(日)【平成25年第25週】の感染症発生状況  
 第25週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・手足口病 でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり5.45人と前週(6.88)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 手足口病は定点当たり1.70人と前週(1.06)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が18件あり、前週より報告数は増加しています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



## これからの季節「夏かぜ」にもご注意を！！

夏季には、いわゆる「夏かぜ」と呼ばれる咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナなどの患者が増加します。原因はアデノウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなど様々で、同じウイルスでも型によって症状が異なる場合もあります。

5月以降、全国的に咽頭結膜熱が増加していますが、川崎市においても手足口病やヘルパンギーナの患者報告数が増えてきました。



正しい手洗い 便の適切な処理

～徹底して感染予防～

### 注意すべきポイント！！

これら「夏かぜ」は、ウイルスの型によっては髄膜炎を引き起こすものもありますので注意が必要です。

また、特別な治療方法はなく、長期にわたってウイルスが便から排泄されることもあるため、正しい手洗いや便の適切な処理を徹底することが重要です。

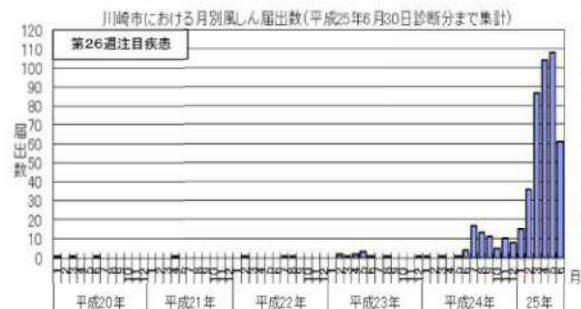
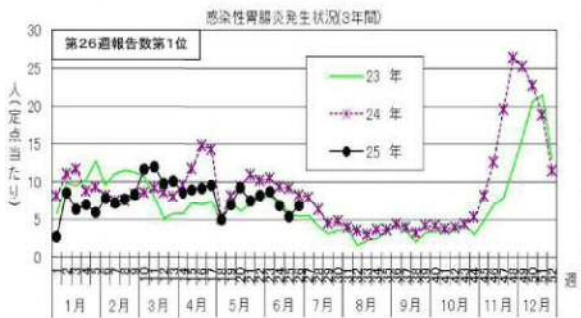
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先)健康安全研究所:044-276-8250(麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く。)  
 ※麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関することは各区役所保健福祉センター地域保健福祉課へ御連絡ください。

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

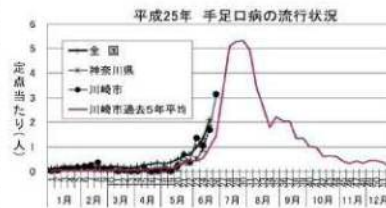


平成25年6月24日(月)～6月30日(日)【平成25年第26週】の感染症発生状況  
 第26週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)ヘルパンギーナ でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり6.82人と前週(5.45)より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。  
 手足口病は定点当たり3.15人と前週(1.70)より患者報告数は大きく増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 風しんの届出が11件あり、前週より報告数は減少しています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。



## いよいよ本格的な流行か！？～手足口病～

「手足口病」は、乳幼児を中心に例年夏期に流行するウイルス性疾患です。川崎市における患者報告数は、例年より早いペースで増加していますので、今後の本格的な流行に注意が必要です。



手足口病は例年7～8月に流行のピークをむかえます。今後患者が増えることが予測されますので、予防対策を徹底してください。

対策の基本は、しっかり手を洗うこと、排泄物を適切に処理すること、患者との接触を避けること、タオルなどの共有はやめることなどです。



患者は5歳以下の乳幼児がほとんどで、全体の約96%を占めています。保育園や幼稚園などは特に注意が必要です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先)健康安全研究所:044-276-8250(麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く。)  
 ※麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関することは各区役所保健福祉センター地域保健福祉課へ御連絡ください。



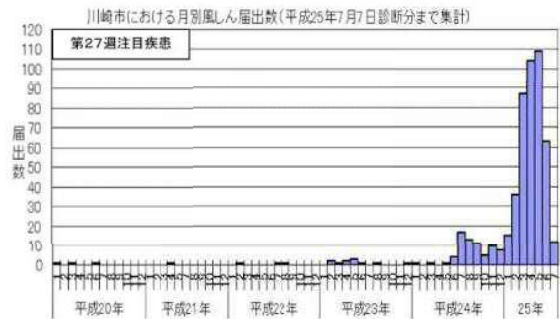
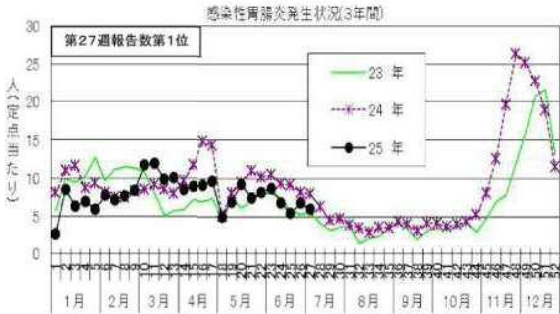
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年7月1日(月)～7月7日(日)【平成25年第27週】の感染症発生状況

第27週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)ヘルパンギーナ でした。  
 感染性胃腸炎は定点当たり5.97人と前週(6.82)より患者報告数は減少し、例年よりやや低いレベルで推移しています。  
 手足口病は定点当たり4.52人と前週(3.15)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナは定点当たり2.12人と前週(2.00)より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。  
 腸管出血性大腸菌感染症の発生届が3件ありました。全国的に患者数が増加していますので、今後の発生動向に注意が必要です。



## 特に夏期は要注意！～腸管出血性大腸菌感染症～

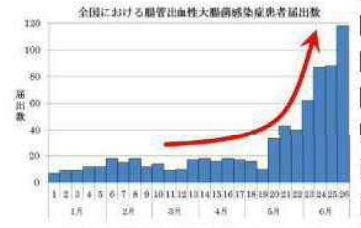
6月以降、全国的に腸管出血性大腸菌感染症(O157など)の届出数が急増しており(右下グラフ参照)、川崎市においても第27週に3件の届出がありました。  
 腸管出血性大腸菌は感染力が強く、数十個～100個程度の少量の菌でも発症することがあります。また、酸に強く、胃酸の中でも生き残ってしまうため、感染予防に注意が必要です。対策としては、日頃から手洗いを徹底し、肉を中まで十分に加熱するだけでなく、野菜などもしっかり洗うことが大切です。

野菜もよく洗うべし

肉は中まで焼くべし

手はよく洗うべし

感染しないための3原則



腸管出血性大腸菌感染症は、例年、7月中旬から9月中旬にかけて患者が増加します。そのため、今後患者数がさらに増加することが推測されます。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

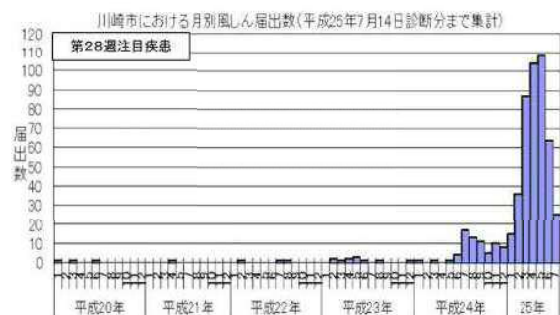
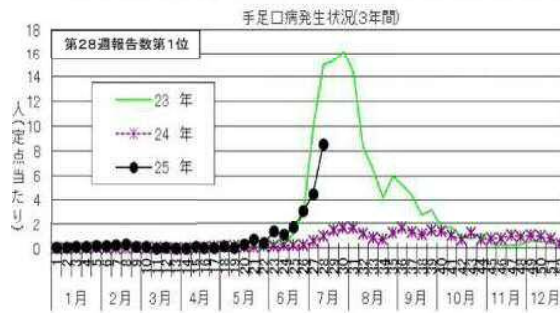
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年7月8日(月)～7月14日(日)【平成25年第28週】の感染症発生状況

第28週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナ でした。  
 手足口病は定点当たり8.55人と前週(4.52)より患者報告数は大きく増加し、流行発生警報基準値(定点当たり5人)を超え、例年より高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎は定点当たり4.36人と前週(5.97)より患者報告数は減少し、例年よりやや低いレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナは定点当たり3.79人と前週(2.12)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

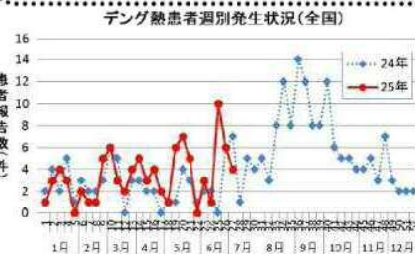


## 海外でデング熱流行中！～海外旅行には蚊の対策を～

現在、東南アジアや中南米等で、デング熱が流行しています。国内でも昨年は夏にかけて患者数が増加しました。夏期の旅行シーズンに流行地へ出かける予定のある方は特に気をつけてください。

### どんな病気？

デング熱は、デングウイルスを保有した蚊に刺されることにより感染する病気です。2～15日(通常2～7日)の潜伏期の後、38～40℃の発熱、頭痛、関節炎、筋肉痛、痒みや痛みのない発疹が見られます。症状は1週間程度で回復しますが、デング出血熱・デングショックとよばれる重症の状態になると死亡することもあります。なお、自己判断による解熱剤等の使用は危険なので、必ず医療機関を受診してください。



蚊に刺されないために

ワクチンや予防薬は存在しません。長袖、長ズボン(なるべく厚めの生地)で肌を露出しないようにすることや、虫除けスプレー、ローションの使用等により蚊から身を守りましょう。蚊取り線香も有効です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

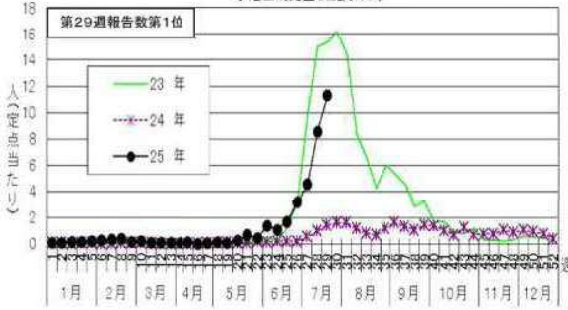
【感染症発生動向調査事業から】



平成25年7月15日(月)～7月21日(日)【平成25年第29週】の感染症発生状況

第29週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナ でした。  
 手足口病は定点当たり11.27人と前週(8.55)より患者報告数は大きく増加し、流行発生警報基準値(定点当たり5人)を超え、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎は定点当たり3.61人と前週(4.36)より患者報告数は減少し、例年よりやや低いレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナは定点当たり3.58人と前週(3.79)より患者報告数はやや減少し、例年より低いレベルで推移しています。

手足口病発生状況(3年間)

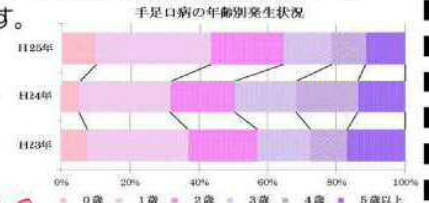


## 過去2番目に大きな流行～手足口病～

現在「手足口病」が、一昨年に次ぐ高い水準で流行中です。過去最大の流行が見られた平成23年とほぼ同様の発生状況で、現在報告数は毎週増加しています。



年齢別では、5歳以下の乳幼児に多く、2歳以下が全体の半数以上を占めています。

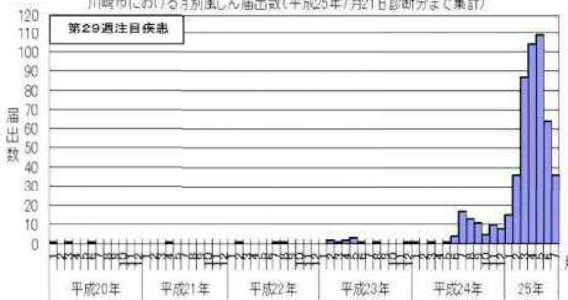


## ～今年の流行の特徴は！？～

手足口病の原因はエンテロウイルスやコクサッキーウイルスなどですが、今年は2年前にも検出された「コクサッキーウイルスA6」という型が多く検出されています。コクサッキーウイルスA6に感染すると、手、足、口以外の部分にも水痘(みずぼうそう)に似た大きな水疱を発症することがあり、治癒後に爪がはがれたり、変形したりするなどの症状が出ることもあります。

手足口病は一般に予後良好な感染症ですが、髄膜炎や脳炎などを引き起こすこともありますので、高熱が続いたり吐き気がある場合は、早めに医療機関を受診してください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

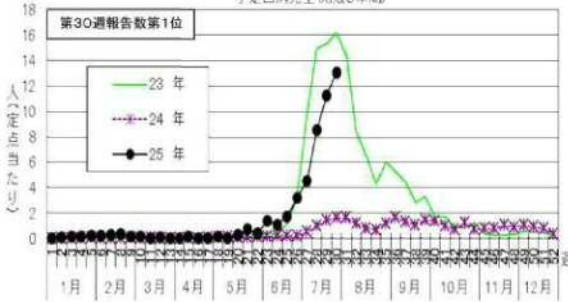
【感染症発生動向調査事業から】



平成25年7月22日(月)～7月28日(日)【平成25年第30週】の感染症発生状況

第30週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎 でした。  
 手足口病は定点当たり13.09人と前週(11.27)より患者報告数はさらに増加し、流行発生警報基準値(定点当たり5人)を超え、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 腸管出血性大腸菌感染症の届出が5件(O157:3件、O111:2件)ありました。全国的にも、5月下旬以降届出数は増加傾向にあるため、引き続き発生動向に注意が必要です。

手足口病発生状況(3年間)

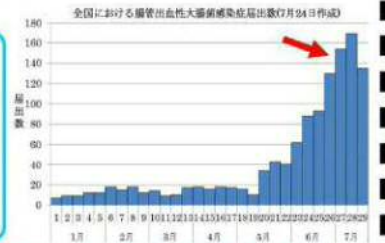


## 腸管出血性大腸菌感染症に御用心！！

全国的に、腸管出血性大腸菌感染症の届出数が急増しています。夏場は、気温や湿度が高く、腸管出血性大腸菌(O157など)の増殖が盛んになるため、特に注意が必要です。

### 肉以外からO157！？

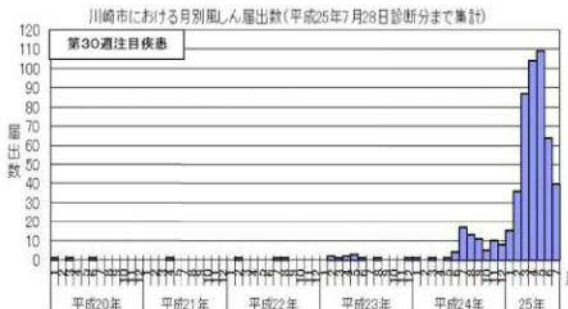
従来の腸管出血性大腸菌感染症は、生肉や加熱不足の焼肉を食べることで感染するケースが多くみられました。ところが最近では、焼肉などを食べていない方でも発症する事例も多くみられています。



## 適切な手洗いと食品の十分な洗浄・加熱を心がけてください！！

大腸菌などの細菌は目に見えないため、どこに付着しているかわかりません。生肉だけでなく、野菜などに付着し、調理器具等を汚染することもあります。細菌による感染を予防するために、日頃から手洗いを徹底し、食品の十分な洗浄・加熱を心がけましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250





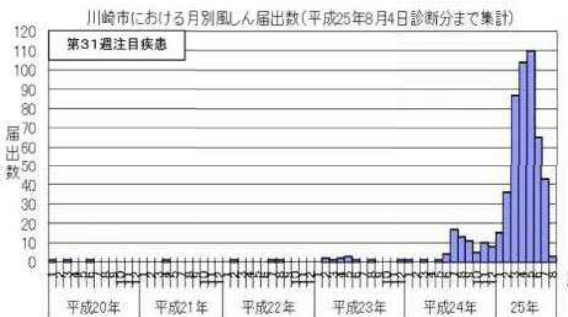
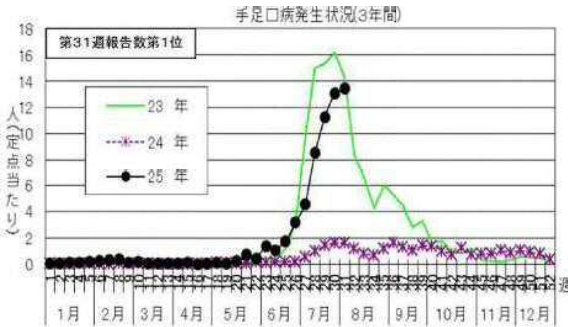
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年7月29日(月)～8月4日(日)〔平成25年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎 でした。  
手足口病は定点当たり13.44人と前週(13.09)より患者報告数はやや増加し、流行発生警報基準値(定点当たり5人)を超え、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
腸管出血性大腸菌感染症の届出が2件(O157:2件)ありました。全国的にも、5月下旬以降届出数は増加傾向にあるため、引き続き発生動向に注意が必要です。



## 家庭での食中毒予防を徹底しましょう！！

夏場は、腸管出血性大腸菌やカンピロバクターなどによる細菌性の食中毒が発生しやすくなります。また、冬場に多いノロウイルスも、食中毒の原因となることがあります。

川崎市では、腸管出血性大腸菌感染症(O157など)の届出数が例年を超える勢いで増加していますので、ご注意ください。



## 食中毒を防ぐには？

家庭での食中毒を防ぐには、食中毒予防の3原則「つけない」「増やさない」「やっつける」を実践することが大切です。

### つけない

- ・包丁やまな板は肉用、魚用、野菜用に分けましょう。
- ・ふきんやタオルは清潔なものを用意しましょう。

### 増やさない

- ・購入した食品は、家に帰ったらすぐに冷蔵庫に保管しましょう。
- ・冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下に保ちましょう。

### やっつける

- ・食品は中心部までしっかり加熱しましょう。(中心部分の温度が75℃で1分以上)
- ・生肉や魚を切った包丁やまな板はよく洗って消毒をしましょう。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250

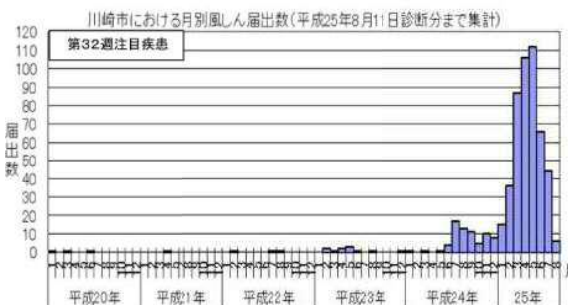
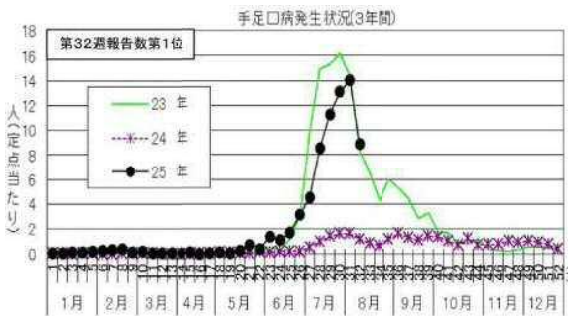
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年8月5日(月)～8月11日(日)〔平成25年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナ でした。  
手足口病は定点当たり8.87人と前週(13.61)より患者報告数は減少しましたが、流行発生警報基準値(定点当たり5人)を超え、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
感染性胃腸炎は定点当たり4.17人と前週(3.88)より報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。  
腸管出血性大腸菌感染症の届出はありませんでしたが、全国的にも、5月下旬以降届出数は増加傾向にあるため、引き続き発生動向に注意が必要です。



## 「動物由来感染症」ってご存知ですか？

「動物由来感染症」とは、動物から人に感染する病気の総称です。特に海外では、鳥インフルエンザや狂犬病など多くの動物由来感染症が発生しており、近年ではカメを原因とするサルモネラ症も発生しています。

### 「カメ」からサルモネラ！？

米国では、平成23年5月以降、主に乳児を中心として、子どもが「カメ」に触ったことを原因とするサルモネラ症の集団発生が、広域的に繰り返し発生しています。

カメ等のハ虫類の多く(50～90%)は、国内外を問わず、サルモネラ属菌を保有しており、胃腸炎症状を起こしたり、まれに菌血症や髄膜炎等の重篤な症状を引き起こす場合があります。



### 動物からの感染を防ぐには？

- 1 細菌やウイルス等が動物の口の中やつめにいる場合があるので、動物との過剰な触れ合いは控えましょう。
- 2 動物の毛には寄生虫の卵などがついていいることがあるので、動物に触ったら、必ず手を洗いましょう。
- 3 野生動物は、どのような病原体を保有しているかわかりませんので、家庭での飼育や野外での接触は避けましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)  
(問い合わせ先) 044-276-8250